

和歌山県内の温室効果ガス排出量について

2013 年度（平成 25 年度）の和歌山県域温室効果ガス排出量

<総括>

2013（H25）年度の県域全体の総排出量は 20,410 千 t で、前年度より 739 千 t 増加した。

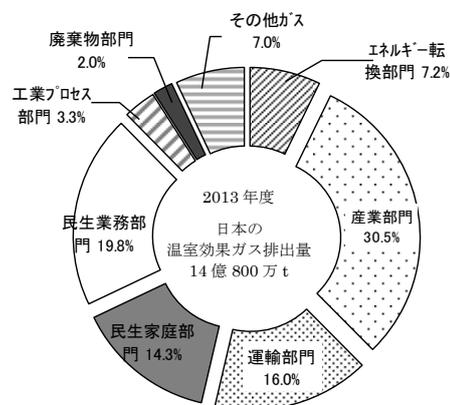
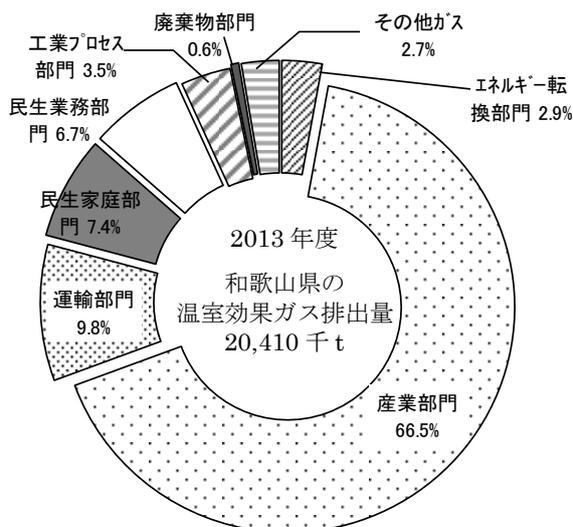
日本全体の景気の回復基調が本県においても製造業を中心に現れた始めたことが、温室効果ガスの排出量増加要因として考えられる。

国の温室効果ガスの近年の傾向は、リーマンショックの翌年 2009（H21）年度に減少した後、増加傾向に転じている。本県においても 2009（H21）年度以降は、概ね国と同じ傾向となっている。

また、2013（H25）年度についても、温室効果ガスの増加には、東日本大震災以降の火力発電の増加が影響している。

<温室効果ガス排出量の部門別割合>

県内温室効果ガス排出量のうち 2013（H25）年度における部門別排出量構成比は、以下グラフのとおり。本県の温室効果ガス排出量部門別割合の特徴としては、産業部門が国では全体の約 3 割に対して、本県では 6 割～7 割と構成比が高いことにある。産業部門の温室効果ガスの排出量が全体に大きく影響する。



<温室効果ガス排出量の部門別増減割合>

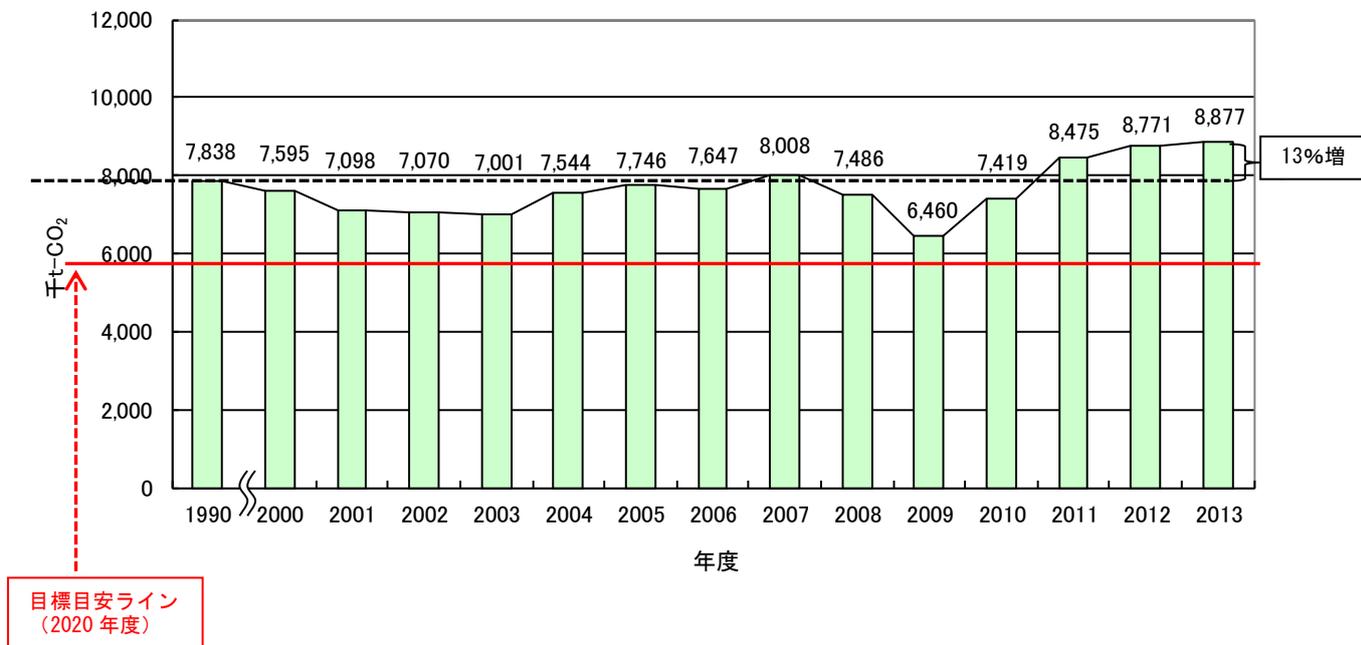
各部門別の 2013（H25）年度の県域全体の排出量の 1990（H2）年度（京都議定書基準年度）と比較した状況は以下のとおり。

〔減少〕 産業部門－10%、廃棄物部門－24%

〔増加〕 エネルギー転換部門＋20%、運輸部門＋10%、民生家庭部門＋75%、
民生業務部門＋6%、工業プロセス部門＋66%、その他 5 ガス＋55%

2013（H25）年度の「大規模排出事業者を除く和歌山県内温室効果ガス排出量」

- ・2013（H25）年度の大規模排出事業者を除く温室効果ガスの排出量は8,877千tとなった。
- ・和歌山県地球温暖化対策実行計画の削減目標（目標年度：2020(H32)年度）は、1990年（H2）比-24%としているが、2013（H25）年度の実績としては1990年比+13%となっている。



- ※ 今後、各種統計データの年報値の修正、算定方法の見直し等により、各年度の排出量が変更される場合があります。
- ※ 温室効果ガス排出量や和歌山県地球温暖化対策実行計画に基づく措置及び施策の実施状況については、和歌山県環境白書において毎年公表しています。